

将来ビジョン 「教育」

教 育

高度な専門職業人の養成
地域単位でのTeach for
Communities

- 新教員組織（教育研究院）の立上げ
- 理系修士課程（自然科学技術研究科）の設置・博士課程の改組とデザイン思考教育・マネジメント教育の導入
- 経営／マネジメント教育部門の立上げ：社会システム経営学環
- 大学機関別認証評価
- 教員養成課程の機能強化（学部定員見直し、推薦入試導入、教職大学院の充実）
- 社会人の学び直し教育への環境整備（ME養成のための施設整備）
- 医学教育共同利用拠点の機能強化と世界水準の医学教育開発の推進（フェロシップ立上げと学位（修士）化）
- 医学教育の充実（国際認証、看護学科定員見直し、医療過疎対策）
- 獣医学博士課程の再編（連獣の解消、共同獣医専攻立上げ）
- 全学共通教育における英語教育の充実、数理データサイエンス教育の強化、農林畜産学教育の充実
- 入試方法の改善
- 教育推進・学生支援機構による教育の質保証システムの向上及び多様な学生への学修等支援の推進



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

コロナ禍による影響

【概要】

令和3年4月7日（水）の本学入学式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、新入生の健康・安全面を最優先に考えた結果、代表者のみの出席により挙行いたしました。

本学は、新入生の皆様のご入学を心から歓迎するとともに、学問への取り組みや様々な活動への挑戦を全力で支援します。



森脇学長から代表者に学位記を授与

コロナ禍における 岐阜大学の教育学生生活に関する取り組み

安心して学べる環境づくり

森脇 久隆 (校長)

新や考え方を深く学ぶことができる対面授業は大学教育の根幹を成すものとの考えから、特に大学の学びに慣れている1年生の授業については、できるだけ対面授業が実施できるよう、早い段階から努めてきました。

これから岐阜大学入学を目指す皆様にも安心して大学生生活を送ってもらえるよう、本線で本学の取り組んできたコロナ対策の一部をご紹介します。今後も、より一層安全に配慮しながら教育の質の向上を目指してまいりますので、皆様のご理解・ご協力を賜りたいと思います。

方策を検討してきました。また、コロナ禍で不安になっている学生の心のケアについても対応してきました。大学教育は知識習得のみを目的とするのではなく、専攻に対する情

授業における取り組み

- 教室の定員制限
- 消毒、ウエットティッシュの配付
- 通信授業の取り組み
- ZOOMを活用した授業の様子

学生生活における取り組み

最良時の食費の減額補助のため、キッチンカーを学内に導入するとともに、食費を減らすことで一部の学費を軽減しました。また、岐阜大学生活の力を得て、高度にパーソナリゼーションを施し、感染防止に努めています。

- 教室のハードディザイン確保等
- 昼食用に設置を確保
- メンタルヘルスのオンライン相談
- 留学期間のためのキッチンカー
- 情報提供で秘密は守られます
- PC・タブレットの購入支援
- 留学生支援
- 学生生活プラン

※ 岐大のいぶき No.41 2021 Spring-Summer より

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/4/8	岐阜	「社会担う力を育む」 岐阜大入学生代表が決意 ～ 応用生物科学部 浅見紬さん、教育学研究科 幅伊吹さん～
2021/4/8	中日	新入生代表18人で入学式 岐阜大・規模を縮小 ～ 応用生物科学部 浅見紬さん、教育学研究科 幅伊吹さん～

岐阜県農業技術センターと連携大学院方式による 教育研究協力に関する協定締結

【概要】

令和3年4月27日（火）に、本学大学院自然科学技術研究科（以下「自然研」という。）は岐阜県農業技術センターと連携大学院方式による教育研究協力に関する協定を締結しました。

本協定は相互に連携し大学院生への研究指導を行う連携大学院方式により、研究活動の推進及びその成果の普及と教育研究活動の一層の充実を図り、本県農業の振興とそれを担う人材の育成に寄与することを目的としています。

協定書締結式では、岐阜県農業技術センター宮田和也所長、自然研の光永研究科長が協定書へ署名を行いました。その後、岐阜県農業技術センター宮田和也所長から「大学との連携を深めることにより、大学が保有する先端技術の知見やノウハウを活用した研究が促進できるとともに、将来の岐阜県農業を支える研究人材の育成につながるものと大変期待している。」と挨拶があり、自然研の光永研究科長は「応用実践教育が求められる中、岐阜県農業技術センターとの連携は極めて重要である」と述べました。

今後は、大学院生の県農業研究への直接参画や、県農業技術センター研究員が指導教員となる大学院生へ指導等を実施し、自然科学技術研究科での学びを充実させていきます。



挨拶する光永研究科長



協定書を手にする宮田所長(左)と光永研究科長(右)

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/5/3	中日	院生指導で連携 県農業技術センター 岐阜大と協定締結 ～自然科学技術研究科 光永徹研究科長～
2021/5/7	岐阜	県農業技術センターと岐阜大大学院 農業研究参加で協定 ～自然科学技術研究科 光永徹研究科長～

新課程「社会システム経営学環」を新設

【概要】

令和3年4月1日付で設置した社会システム経営学環（以下、「経営学環」という。）をさらに広く知っていただき、教育研究活動、社会貢献活動を今後一段と発展させるために、6月30日（水）に表札除幕式及びシンポジウムの設置記念行事を挙行了しました。

経営学環の表札の除幕式は、全学共通教育講義棟前で開催しました。初めに森脇学長から激励を込めた挨拶があり、肥後 睦輝経営学環長から設置に至るまでの多数の協力者への謝辞とともに、学生、教職員とともになお一層前進したいとの思いが述べられ、経営学環の1期生を代表して小椋 一瑛さんから、決意を新たにされた挨拶がありました。続いて、表札の序幕が執り行われ、森脇学長、学生、教職員による記念撮影を行い、更なる飛躍を祈念しました。次に、会場を講堂に移し、オンラインを併用した社会システム経営学環設置記念シンポジウム『探求と探究「学び」を「環」にする岐阜大学の挑戦』を開催しました。

肥後経営学環長の開催挨拶及び経営学環の概要説明の後、第1部は、「地域社会を変えていく起業家とは？ 30年に及ぶ起業家人生を通じて」と題して、Global Mobility Service株式会社 中島 徳至代表取締役社長による基調講演を行いました。第2部は、「多様な学びを「環」にしてこれからの社会をつくる」と題して、経営学環 高木 朗義教授をコーディネーターとして、伊藤 知子氏（長良川温泉若女将协会会长）、岡田 さや加氏（柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社代表取締役）、鈴木 哲馬氏（岐阜県中小企業家同友会代表理事）、中島 徳至氏（先述）ら4名の登壇者がそれぞれの立場から議論を交わす、パネルディスカッションを行いました。質疑応答では経営学環の学生からの質問などもあり、会場全体で議論を深めました。

本シンポジウムには学内外145人の参加がありました。経営学環における人材養成のあり方を様々な視点で議論したシンポジウムから得た学びを、経営学環における教育・研究・社会貢献の発展に活かしていきます。



代表挨拶をする小椋 一瑛さん



設置記念シンポジウム
中島 徳至氏による「基調講演」

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/1	岐阜	社会システム経営学環 岐阜大新課程 看板の除幕式 1期生は32人 ～ 肥後睦輝学環長、1期生 小椋一瑳さん～
2021/7/1	中日	岐阜大新学環 表札の除幕式 ～ 森脇久隆学長、1期生 小椋一瑳さん～

高大連携「宇宙工学講座」の開講

【概要】

本学地域協学センターは、令和3年7月4日（日）に令和3年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館にて開催し、本講座を受講・聴講する岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました。また、一部の受講生はリモートで参加しました。

宇宙工学講座は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」における高大連携事業の一環として、本センターが航空宇宙生産技術開発センターの協力のもと、岐阜県、各務原市、岐阜県教育委員会、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、岐阜工業高等専門学校と連携して実施しています。岐阜県内の高校生及び3年生までの高専生が、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、今年度は63名が受講・聴講します。なお、これまでの5年間でのべ66校が参加、211名の修了生を輩出しています。

開講式では森脇学長からの挨拶、国内外の宇宙機関・関係者のビデオメッセージ、受講生紹介などが行われました。また、缶サット甲子園全国大会で技術賞を受賞した岐阜工業高等専門学校チームによる「缶サット甲子園全国大会」の報告、講座の修了生らによるJAXAプロジェクト「はやぶさ2カプセル研究プロジェクト」の報告があり、森脇学長と村井工学部長との質疑応答が行われました。

今後本講座では、12月18日（土）の閉講式までに9回の講義が実施される予定です。



プロジェクト報告者と森脇学長、村井工学部長との質疑応答の様子



出席者の記念撮影の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/6	岐阜	宇宙工学 膨らむ興味 高大連携の岐阜大講座 宇宙博 で開講式

産業動物臨床実習施設が完成

【概要】

令和2年度より整備を進めてきた本学柳戸農場内の「産業動物臨床実習施設」が完成しました。

本施設は、主に応用生物科学部の教育研究に使用し、将来の産業動物獣医師および畜産系専門職業人の育成のために活用されます。隣接する岐阜県中央家畜保健衛生所ともさらに連携を強化し、伝染病の発生予防、蔓延防止に努めていきます。また、本学のようにキャンパス内に畜産施設が併設されている大学は近隣にはないため、他大学の実習にも活かされます。

令和3年7月26日（月）には見学会を開催し、学内関係者18名が参加しました。参加者からは「この実習施設の完成により、教育効果向上と研究支援効果向上が、大いに期待できる」との声がありました。

本施設は本年度末の本格運用開始を目指します。



完成した実習施設



施設内の様子



見学会の様子



説明する大場岐阜フィールド科学教育研究センター長

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2021/7/27	CCN 地上デジタル12ch 「エアトピックス」	産業動物臨床実習施設の竣工・見学会の様子を紹介

岐阜県と「感染症寄附講座」の設置に関する協定締結

【概要】

岐阜大学と岐阜県は、令和3年7月30日(金)に、県内における質の高い感染症教育による専門医の育成等を目的に、「感染症寄附講座(岐阜県)」を岐阜大学大学院医学系研究科に設置することとし、それに関する協定を締結しました。

本協定は、感染症の診療及び制御に長けた医療従事者を育成し、岐阜県の感染症全般にわたる医療提供体制の一層の充実を図るため、「県内感染症専門人材の育成」、「地域連携による県内感染制御体制の強化」、「感染症学・感染制御学・感染症災害に関する学術的研究の実施」を目的とし、寄附講座を設置するものです。

協定締結式では、古田肇岐阜県知事、森脇久隆岐阜大学長が協定書に署名を行いました。その後、森脇学長から「当面は新型コロナウイルス感染症への対応が中心となるが、今までの臓器別の感染症対応から、横断的、つまり全身を見ながらの感染症対策につなげることができる」と寄附に対する謝辞があり、古田知事からは「感染症専門医の人材不足への対応を期待し、感染症対応の体制をともに作っていきたい」と挨拶がありました。

本協定の締結を契機として、新型コロナウイルス感染症対応等、岐阜県の感染症に対する体制を強化するとともに、将来「新興感染症」が発生した場合においても、県民の安全・安心を高められるよう邁進していきます。



協定書署名後の記念写真

(左から堀岐阜県健康福祉部長、古田知事、森脇学長、中島医学系研究科長、小倉教授(救急・災害医学分野))

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/31	岐阜	岐阜大に感染症講座 人材育成 県の寄付で設置
2021/7/31	中日	感染症の人材育成 岐阜大に寄付講座 県と協定締結 ～ 森脇久隆 学長 ～
2021/7/31	読売	感染症寄付講座 県と岐阜大協定 ～ 森脇久隆 学長 ～

『岐阜大学起業プログラムおよび岐阜大学発学生ベンチャー』について学長記者会見を実施

【概要】

本学は、令和3年10月7日（木）に令和3年度第2回学長記者会見を実施しました。今回の会見では、最初に森脇学長が「岐阜大学起業プログラムおよび岐阜大学発学生ベンチャー」について、「新しい大学モデルと持続的かつ先導的な東海地域 TOKAI-PRACTISS」および「地域展開ビジョン2030」と関連させて説明を行いました。次いで上原雅行学術研究・産学官連携推進本部副部門長から、本学における起業支援に関する取り組みについて、自然科学技術研究科物質・ものづくり工学専攻2年 長曾我部竣也（FiberCraze株式会社 代表取締役社長）から、設立したベンチャー企業の事業概要等について説明しました。

本学は、岐阜・東海地域に起業風土を根付かせ、地域経済の活性化や新産業の創出に寄与することを目的として、「岐阜大学発ベンチャーの創出・成長支援」と「起業家の育成教育」を推進しています。アントレプレナーシップ教育、大学発ベンチャー支援、成長支援という3つのステージの体系的な起業プログラムを整えており、さらに近年、学内外に起業家等が活動できる環境の整備も進めています。上原学術研究・産学官連携推進本部副部門長は、「この体系的な起業プログラムを経て設立された、大学の研究成果を活用した学生スタートアップをロールモデルとして、今後も更に社会的インパクトのある学生スタートアップを立ち上げていきたい。」と今後の展望を述べました。

自然科学技術研究科物質・ものづくり工学専攻2年 長曾我部 竣也さんは、所属する研究室の技術を活用し、令和3年9月22日付けで岐阜大学発ベンチャーFiberCraze株式会社を設立しました。FiberCraze株式会社では、本学の研究成果である繊維・フィルム加工技術を用いて素材に微少な"あな"を空け、そこに様々な機能（成分）を付与した製品を提供します。長曾我部さんは、起業に関する講義を受講したことで起業への関心が高まり、本学が提供している起業プログラムも積極的に活用しました。今後の目標については、「技術の特性を活かした機能性素材を様々な分野に展開することによって、産業や生活の発展を担う素材のインフラを目指していきたい。」と意気込みを語りました。

本学は今後も、多くの学生が起業の楽しさを知り、身近に感じることが出来るような環境を整えていくことで、地域経済の活性化に貢献出来るよう邁進していきます。



説明する森脇学長



説明する上原学術研究・産学官連携推進本部副部門長



説明する長曾我部さん



工学部 武野教授(右)と長曾我部さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/12	朝日	岐阜大研究室発 特許技術で起業 愛知・一宮出身「繊維産業に貢献したい」 大学院生・長曾我部さん 教授とベンチャー設立 ～ 自然科学技術研究科 武野明義教授, 大学院生 長曾我部竣也さん ～
2021/10/13	中日	虫寄せつけない繊維開発 岐阜大院生・長曾我部さん起業 ～ 自然科学技術研究科 武野明義 教授, 大学院生 長曾我部竣也さん ～
2021/11/7	岐阜	恩師の研究, 大学院生が事業化へ 独自繊維でベンチャー 靴下や防虫ネット, 開発中 ～ 大学院2年 長曾我部竣也さん, 工学部化学・生命工学科 武野明義教授 ～

医学教育開発研究センター (MEDC)

第81回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター（以下、「MEDC」とする。）は、令和4年1月22日（土）と23日（日）の2日間にわたり、第81回医学教育セミナーとワークショップをオンラインにて開催しました。公募を含めた計5つのワークショップならびにWebinarを実施し、講師を含む総勢120名の参加がありました。

ワークショップでは、「医療者教育の研究を立案してみよう」、「LGBTQ教育の設計・実践」、「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」など、多彩なテーマについて活発な論議がなされました。「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」のワークショップでは、オンライン教育、特に非同期教育において必須とされる教材を、簡単に作成することができる無料のオープンソースソフトウェア"Lumi Education"を使用し、各自で教材を作成した後、グループで共有して意見を出し合いました。コロナ禍のみならず、平時に戻った後も利用可能な教材作りに役立つ体験をすることが出来ました。

またWebinarでは、座長に自治医科大学の浅田義和先生を迎え、当センターの恒川幸司助教が「医学教育IR室奮闘記 ～データで医学教育の何を変えられたのか～」と題して、岐阜大学医学部IR室の活動を振り返りました。IRとは、"Institutional Research"の略称で、学内データを収集・分析・報告することにより学内の改善を促すものです。Volkweinが提唱する「IRの4つの機能」を紹介しながら、苦労話や分析結果から得たものについて語りました。聴講者からの質問は随時チャット形式で受け、座長及び聴講者との活発な論議もなされました。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しており、次回第82回は5月19日（木）～21日（土）の3日間、第22回医学部・歯学部教務事務職員研修とオンラインにて併催予定です。



第81回 医学教育セミナーとワークショップ
2022年 1月22日(土)～23日(日)(Web開催)

Webinar 医学教育IR室奮闘記～データで医学教育の何を変えられたのか
講師：恒川幸司 (MEDC)

WS-1 医療者教育の研究を立案してみよう(第16回医学教育研究技法WS)
小講：医学部教育 東京医科歯科大学

WS-2 企業中！～医療者教育課程でLGBTQ教育を設計・実践しよう
小講：1)山崎浩一(東京医科大学) 豊田聡子(東京医科大学) 佐藤あゆみ(1工科大学) 高田由紀(東京医科歯科大学) 佐藤あゆみ(1工科大学)

WS-3 患者安全拠点型医療者教育実践カンファレンス構築ワークショップ
小講：松本真由(全日本学生支援協会の学業支援部) 伊藤雅典(全日本学生支援協会) 田中真由(岐阜医科大学)

WS-4 Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会
小講：藤本真由(全日本学生支援協会) 八木聡子(1工科大学) 林野千穂(1工科大学)

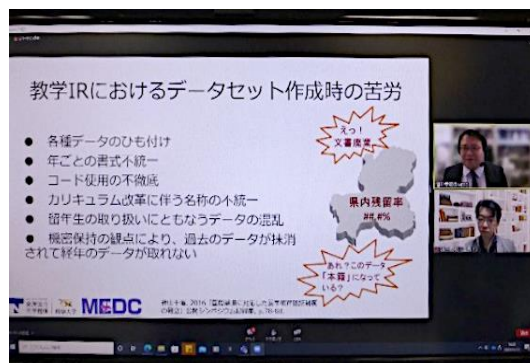
WS-5 第1回医療系IR友の会実践会～卒業データ取巻の実践と課題
小講：恒川幸司 (MEDC) 中村麗子(東京医科歯科大学) 高田あゆみ(1工科大学) 佐藤あゆみ(東京医科歯科大学) 豊田聡子(東京医科歯科大学) 高橋由紀(全日本学生支援協会) 高橋由紀(東京医科歯科大学) 高田あゆみ(1工科大学) 藤本真由(全日本学生支援協会)

1月22日(土)			
13:00-14:00	WS-1	WS-2	WS-3
16:15-17:00	Webinar		
1月23日(日)			
9:00-12:00	WS-4	WS-5	

QRコード: 153.96.1.12/2468

第82回 岐阜 2022/5/19-21
第83回 関西医科大学 2022/5/26-28
第84回 岐阜(Web) 2022/7/4

MEDC 岐阜大学医学教育開発研究センター
TEL: 056-233-2470 FAX: 056-233-2468
〒500-8705 岐阜市大田町1-1-1 岐阜大学 医学部 医学教育開発研究センター



教学IRにおけるデータセット作成時の苦労

- 各種データのみも付け
- 年ごとの書式不統一
- コード使用の不徹底
- カリキュラム改革に伴う名称の不統一
- 留年生の取り扱いにともなうデータの混乱
- 機密保持の観点により、過去のデータが抹消されて近年のデータが取れない

「えっ! 文書廃棄」
県内残留率 28.4%
「あれこれのデータ「本音」になっていく」

MEDC 岐阜大学医学部IR室

Webinarの様子

スマート環境制御対応温室を設置

【概要】

応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターにスマート環境制御対応温室（以下、スマート温室）が設置されました。

スマート温室は栽培面積216㎡、栽植本数360株の温室で、ICTを活用した環境制御機能を有しており、環境モニタリングすることで、ロックウール栽培による養液管理、自然換気の制御、温湿度管理、CO₂濃度管理、LEDのインターライティング管理を設定に合わせて自動制御します。応用生物科学部の学生は研究や実習を通してスマート温室について学び、活用していきます。

令和3年11月25日（木）には学内見学会を行い、担当の嶋津教授から説明がありました。出席者からは、名古屋大学との連携教育や先端農学研究への利用に期待する意見が出されました。

スマート温室は今後、岐阜大学の学生をはじめ、他大学の実習、近隣小・中学校、高校や、公開講座等にも活用される見込みです。



スマート温室の外観



温室内の生育状況



LEDによるインターライティング管理



収穫の様子

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト 「成果発表会」を開催

【概要】

本学は、令和4年2月3日（木）に「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生及び地域協学センターの講義を受講している学生等による成果発表会をオンラインにて開催しました。

「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」とは、岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を支援し、地域経済の活性化を図ることを目的とするものです。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業科目「機械工学創造演習」において、グループごとに県内企業による講義や実習に参加し、また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の科目の一つで、地域協学センターが開講する「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員の方々取材し、企業紹介のレポートを作成しました。

発表会では、産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会会長である株式会社ナベヤの岡本代表取締役社長が、「中小企業の特徴として経営課題の解決が即実践に結び付くというダイナミズムを経験し、近い将来、学生諸君が岐阜の地で活躍することを期待します」と激励し、森脇学長からは「高度なアクティブラーニングの場のご提供に対し感謝するとともに、次年度以降も引き続いて大学内での本事業の展開を図っていきたい」と挨拶がありました。

続いて、全部で29の学生グループ等がこれまでの取り組みで得られた成果について発表を行い、学生からは「岐阜県内の企業活動を知るよい機会となった」などと肯定的な振り返りがありました。

本学は今後も、本プロジェクトを通して、岐阜県、産業界、金融機関等と連携し、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の育成、確保、定着を推進していきます。



成果を発表する学生

岐阜大学シンポジウム「インクルーシブ教育時代における学校管理職の育成」を開催

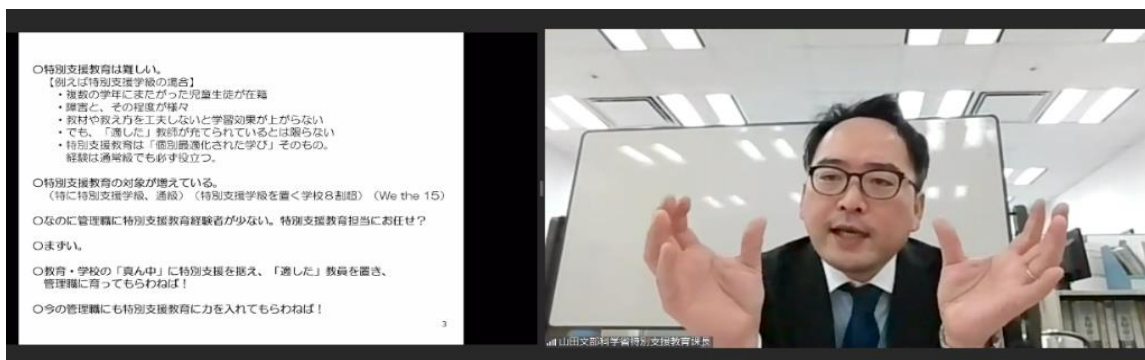
【概要】

令和4年2月7日（月）に、岐阜大学シンポジウム「インクルーシブ教育時代における学校管理職の育成」をオンラインにて開催しました。岐阜県内のみならず、全国の大学や学校、教育委員会、保護者等142名が参加しました。

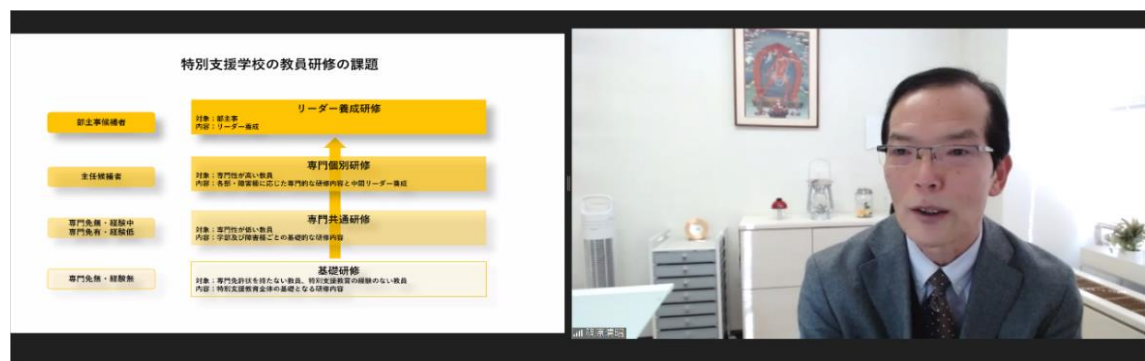
インクルーシブ教育システムの構築が求められている今日、特別支援教育の視点から学校管理職の育成を考えることが急務となっています。第一部では、文部科学省特別支援教育課の山田泰造 課長が「特別支援教育の立場からの管理職の育成について」と題して基調講演を行い、今日の特別支援教育政策や管理職の育成について説明しました。また、岐阜聖徳学園大学の篠原清昭 教授は、学校経営学の立場から山田課長と対話を行い、参加者はさらに学びを深めることが出来ました。

第二部の「令和3年度 NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業報告：特別支援学校の管理職になる前の学びを支えるオンライン機能開発研修」では、具体的な研修コンテンツを共有し、それらを踏まえた第三部の参加者交流では、これからの管理職育成に必要なことを話し合いました。本シンポジウムは、学校管理職の育成について特別支援教育の視点から学び、考え、これからの歩みを進めるための重要な機会となりました。

岐阜大学教職大学院は、来年度より教科教育を取り入れた新しい教職大学院となります。引き続き、皆様との交流を通じて、多様な子どもを包有する教育への充実発展に向けて努力していきます。



説明する文部科学省特別支援教育課 山田泰造 課長



説明する岐阜聖徳学園大学 篠原清昭 教授